

2023年度外部研究評価委員会における主要意見及び国環研の考え方

自然共生研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	研究の全体構成がしっかり構築されており、統合的分析への道筋が見えており、良い成果が着実に上がっていることを高く評価する。	コメントありがとうございます。今後ともよりよい研究成果の蓄積を進めてまいります。
	外来アリ類の防除と検出の高度化では研究成果の社会実装まで進められていることを高く評価する。	ご評価して頂きありがとうございます。今後ともよりよい研究成果の蓄積と社会への貢献を進めてまいります。
	プロジェクトが対象とする生物や地域など、課題が関係する範囲が大きいことから、社会全体で取り組む体制作りもあると良い。また、一般にも研究成果を宣伝し、市民と考える機会が増えたら良い。	国レベルでは生物多様性国家戦略の策定やフォローアップ、JBO4 検討、30by30 アライアンスへの参画等を通じて施策と協働体制を構築するとともに、各ステークホルダーとの連携や広報・普及啓発活動など社会との連携体制を構築して進めており、さらなる体制の強化・拡充を図りたいと考えています。
	ネイチャーポジティブなど、国際的な生物多様性の動きにも確実にキャッチアップしている。UNFCCC、CBD ともにますます重要になっていく分野であり、そのような世界的な流れも把握している。	コメントありがとうございます。今後とも国際動向の把握に努めていきます。
今後への期待など	世界的な課題となっている HWC について、今後の国際的な発信にも期待したい。	コメントありがとうございます。今後とも国際的な発信や研究成果の社会還元に貢献していきたいと思えます。
	TNFD が今後重要になってくることから、さらなる研究及びその成果の社会的活用貢献されることを期待する。	
	ヒグマ対策についても新たに取り組むことはできないのでしょうか。	ヒグマの行動範囲を考慮した個体数推定を行っており今後の管理につなげたいと考えています。
	外来生物が環境中に放たれることによる問題をもっと国民に知らしめると共に業者などへの有効な抑止制度の構築を行政に指導していただけるようお願いしたい。	構築した侵入種データベースの継続的な維持と更新、広報を行うとともに、行政や企業と協働した防除技術の開発と実装を今後も進めていきます。